

名古屋

# 石田学園報

第2号 平成5(1993).3.6

名古屋明德短期大学  
星城高等学校  
星城中学校  
星城幼稚園  
星名英子  
名英図書出版協会

## 我、何をなすべきか

理事長・学園長 石田正城

昨年は、NHKの大河ドラマの影響から、大変な織田信長ブームでした。愛唱する幸若舞「敦盛」の一節を「人間わずか50年、下天の内を比ぶれば夢幻のごとくなり、一度生を得て滅せぬもののあるべきか。…」と謡いつつ、信長は出陣しました。戦国時代の武将たちにとっては、如何にして立派に戦死するかが究極の願いであり、また誇りでもありました。平均寿命は28・9歳であったようです。あの立派な鎧や兜は死装束でもあったのです。この時代には天寿を全うする者はごく僅かであったと思われます。昨年発表された日本国民の平均寿命は男76歳、女82歳です。このように、平均寿命が50歳を超えたのは、昭和も戦後になってからであります。私は今年で50歳を迎えます。他人からみれば、年相応

の容姿・顔の年齢でしょうが、私自身から見れば馬齢を重ねてただけで、自分の未熟さを痛感している毎日です。

悠久千年の中から見れば、人間の生命は僅か50年、たとえ寿命が若干伸びたとしても、ほんの夢幻の年月であります。名僧一休禪師は「正月や冥途の旅の一里塚」と詠まれました。これは「明日とも分からない命を如何に真剣に生きていくのか」という仏教の最も重大なテーマを詠んだものと思います。

こんなことを考えていると創立者石田鑑徳先生が残された様々な「教え」の意味がだんだんと理解できてきます。「明德」「彼我一体」「世界観」「仰星」「報謝」「我何人であるか」等々の文章や言葉は、孔子に始まる儒教や「実践理性批判」に見られるカントの倫理思想な

ど広範囲に学んだ学問と参禅の体験の中などから汲み取り、培われたもので、悟りを求める先生自身の心にすべてが結びついています。

先生は「ここをしも悟りの峰と想ひしは迷ひに降る始めなりけり」と詠まれ、今を精一杯努力して行くことが真の幸福につながっていくと訴えられたのです。

この精神を少しでも体得し、具現化していくことが、偉大な教育者を創立者にもった私共の使命であります。

本学園は建学の精神に賛同する関係各位の協力を得て、

創立50年の歴史の上に、平成5年度から幼・中・高・短大・各種学校と、総合学園としての姿を形成いたします。ここ当分の間は、各学校が内容の充実を徹底的に図る、いわば充電の時であります。同時に5年・10年後の将来計画を樹立する時でもあります。本学園傘下の全職員が、創立者の「我何人であるか」、「我何人によってありうるか」、「我何をなすべきか」と自らに問うた心と、「大学」において言う「明德を明らかにする」の精神に則り教育に当たっていただくことを願っております。そこにはじめて本学園の真の建学の精神が具現化されてくるものと信じています。



### 短大に

### 創立者石田鑑徳先生の銅像建つ

創立者石田鑑徳先生の銅像が短大にも設置された。先生の銅像は、すでに星城高等学校、幼稚園、予備校に設置されてあるが、去る平成4年3月23日短大卒業式の日には式後、前庭において先生の巨大な立像の除幕式が挙行された。これで先生の銅像が学園傘下のすべての学校に設置されたことになり、短大の教職員、学生も先生の教えを一層身近かなものとして感ずることができるようになるであろう。

## 国際交流推進の功績により 石田理事長表彰さる

愛知県国際交流協会から

さる、平成4年11月24日石田理事長は、多年にわたる国際交流の推進に尽力した功績により、財団法人愛知県国際交流協会から表彰を受けた。

創立者石田鎌徳先生は1964年にカナダ、アメリカを訪問されて以来、ヨーロッパ、オーストラリア、ニュージーランド、東南アジアの各地の教育視察をし、国際交流を推進するべく第1歩を踏み出そうとしてみえたが、1975年12月に他界された。

あとを継いだ石田理事長は、1976年に米国私学教育視察団員としてアメリカの私学の事情を視察調査に赴き、翌1977年には再度渡米し、ロスアンゼルス郊外のバックスレー・スクールと姉妹校提携をした。そして、同年には第1回親善使節団として星城高等学校生徒32名をアメリカに派遣した。翌年には、オーストラリアを訪れ、メルボルン、キャンベラ、ブリスベン、シドニーの現地の高校との交流を図った。

1979年には第2回短期留学が実施され、星城高校生は、アメリカのバスクリュー・スクール等でホームステイをしながら、海外での勉強を体験した。

1980年にはアメリカから始めての留学生が来校し海外交流の機運はいよいよ高まった。

1981年には理事長は、再度オーストラリアを訪問し、シドニー市長を始めとする現地の各界の有力者の協力を得て、メルボルン、シドニー両市の高校と姉妹校の提携をするに至った。そして1か月後には星城高等学校の第3回短期留学生在がオーストラリアのこれらの姉妹校を訪問した。そして男子生徒は柔道や剣道を、女子は茶華道を披露している。

姉妹校としての交流は、当初は3か月の短期留学の交換であったが、1980年にはアメリカから1か年留学生を受け入れ、1983年には始めて外国人教師を採用し、英会話に力を注いだ。1985年以降はオーストラリアの学校に常時1～3名の留学生を送っている。そして1989年からは1年ないし半年の教員の交換も実施されるようになった。

また、韓国の東山学園の群山東高校、群山女子商業高



祝賀の花束を受ける理事長

校とも、1985年から姉妹校関係を結び、翌年からは修学旅行には、毎年同学園を訪問し、姉妹校としての交流を深めている。

1992年にはカナダのトロントのブランクサム・ホール女子高校とも姉妹校提携ができ、1か年交換留学、短期留学、教員派遣等の約束ができています。

現在星城高等学校が姉妹校提携をしているのは、次の通りである。

バックスレー・スクール	(ロスアンゼルス)
ジロング・グラマー・スクール	(メルボルン)
グラモーガン・グラマー・スクール	(〃)
メントーン・ガールズ・スクール	(〃)
スケッグズ・レッドランズ	(シドニー)
ウェスリー・カレッジ	(メルボルン)
クラレンドン・カレッジ	(メルボルン)
ブランクサム・ホール	(トロント)
東山学園	(韓国・群山)

これらの交流は、星城高等学校長としての石田理事長が常に先頭になって推進してきたものである。

名古屋明德短期大学では

1990年からオーストラリアのブリスベンにあるグリフィス大学へ、英語科の希望者40名ほどが毎年8月に1か月近くの間、英語の語学の研修に出かけている。

1993年(平成5年)4月発足の国際文化科では、オーストラリア、アメリカ、イギリス、インドネシアなど世界中の文化の研究をするとともに、それぞれの現地を訪問することになっている。

## 名古屋明德短期大学

国際文化科を増設  
国際人の養成を目指して  
平成5年4月発足



平成2年度より設置の準備を進めていた名古屋明德短期大学の国際文化科は、平成4年12月21日文部省から設置の認可が下り、平成5年4月より発足することになった。

### 設置の趣旨

外国文化に深い理解を持ち、語学にも堪能で、日本文化を外に向かって紹介できる国際化・情報化の時代に対応する人材を養成することである。

### 学科の特色

西洋文化・東洋文化・日本文化の3コースに学生を分けて、それぞれのコースに応じて多彩な科目を履修できるようになっている。少人数によるゼミナール形式の地域研究の授業に中心を置き、学生は、コースに応じて自分で選んだゼミで、世界及び国内各地の地域に関する特定のテーマについて専門的な講義を聞き、演習に参加する。そして、2年の夏または1年の終り頃に、コースに関係の深い外国または国内各地で、あらかじめ学習した知識、掘り起こされた問題意識をもって現地演習をする。併せて現地の人や学生と交流し、国際理解・国際親善を図る。

### 経過日程

平成3年	7月31日	第1次設置認可申請書提出 寄附行為変更認可申請書提出 (文部省へ)
4年	1月16日	新校舎(第2号館・学生ホール)起工式
	6月30日	第2次設置認可申請書提出
	12月21日	設置認可 寄附行為変更認可
5年	2月末	新校舎完成
	3月6日	竣工式
	4月1日	新学科発足

## 星城中学校の開設

平成5年4月開校  
中高一貫教育による  
教育効果の向上を目指して

平成2年度から準備を進めていた星城中学校が、いよいよ平成5年4月開校を迎えることになった。

### 設置の趣旨

本学園の建学の精神の実現を目指し、継続的な中高6か年の一貫教育を推進して、教育効果を高め、個性の伸長を図り、地域の発展と教育文化の振興に資することを目的とする。

### 特 色

#### 1. 中高6か年の一貫教育の推進

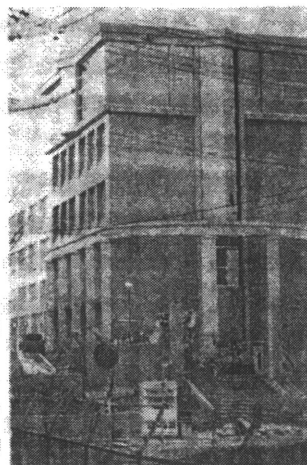
星城高等学校の仰星コースへ直結した指導体制により、教育効果の著しい向上を図り、国公立大学、有名私立大学への多数合格を目指す。

#### 2. 充実したカリキュラムと習熟度別学習

週34時間の授業と、特別ゼミ14時間の時間割り編成で、学力の伸長を図るとともに、主要教科は習熟度に応じたクラス編成及び個別学習指導の体制を組み学習効果の一層の向上を図る。

#### 3. 情報教育・国際教育の推進

建学の精神の趣旨から、不屈の精神、感動する心、思いやりの気持ちを育むとともに21世紀を担う国際人、リーダーの育成を目指す。



### 経過日程

平成3年	7月31日	設置計画書を愛知県私学振興室へ提出
	12月	愛知県私立学校審議会において設置計画を妥当とされる
4年	3月16日	起工式
	10月30日	設置申請書提出
	12月	設置認可の答申が出る
5年	3月	認可の予定
	3月25日	竣工式
	4月1日	開校予定

## 教学運営会議

### 建学の精神の具現化を模索して

本学園では、年3回教学運営会議という会議が開催されている。学園内各部門の教学関係の代表者が集まり、石田学園長が座長となって、主として教学に関することについて協議し、学園の今後の進むべき方向を検討する会議である。

本年度は、学園の特色を強く打ち出したいという趣旨から、建学の精神の具現策はどうあるべきかということが主たるテーマとなり、各部門が現在実践していることを報告し、今後、それぞれの部門として、また学園全体としてどんな具現策をとるべきかを協議してきた。

本学園の建学の精神は、いうまでもなく「報謝の至誠」、「文化の創造」、「世界観の確立」である。

本年度の会議は、次の日程とテーマで行われた。

第1回 平成4年6月11日「報謝の至誠」

第2回 平成4年11月12日「文化の創造」

第3回 平成5年1月25日「世界観の確立」

以下各会議で検討されたことの要旨や話題になったことを部門ごとに記す。

#### 第1回 「報謝の至誠」

##### ○ 短大

常日頃「レディ」たれ、自らのことは自ら責任をもって処理し、成人としての学識・人格を自ら磨くようにと指導している。

##### ○ 高校

感謝の心をもつ生徒の育成を目指している。高校で毎朝唱和されている生徒の「誓いの言葉」の第1に「両親に対し、健康に恵まれ勉強に精進できる喜びを感じます。」というのがある。

真の教育は、呼吸同機、即ち教えを受けようとする者と、教えを授けようとする者の心がびたりと一致したときに理想的に成立する。

自分の生まれ育った国家を誇りに思う人間こそ「報謝の至誠」の目指す人間像であろう。

##### ○ 幼稚園

創立者が心の持ち方として示した「はい、ありがとう、ごめんなさい」と言える心の子どもを育てよう努力している。



会議における学園長と短大高橋学長

##### ○ 名英予備校

この予備校で学んだ生徒から感謝されるような、一人ひとりを大切にす指導に心掛けている。それが教師の側からする生徒への報謝である。

##### ○ 名英図書出版協会

豊かな心即ち真理を求める心、自然を愛し、美しいものや崇高なものに感動する心、生命を尊重する心、他人を思いやる心、感謝の心をもって主体的な判断で実践することのできる子どもの育成が重要である。

##### ○ 法人本部

学園としては、この学園を基本的に支えてくれる日本という国家社会、学園を取り巻く地域社会に感謝の心を持って報い、学園の教育の客体としての学生、生徒、園児を大切にすること、学生・生徒・園児は自分を育て、導いてくれるものに対して感謝の心をもつことがそれぞれの立場における「報謝の至誠」を表す所以であろう。

最後に、「杜子春」の主人公のように、親を思う優しい心を育てることが「報謝の至誠」のねらいであり、そのためには、学生・生徒・園児の一人ひとりを大切にすることが特に必要である旨が強調された。

そして、「感謝のできる、実践力に富んだ逞しい人間を育成する学園」というイメージを世に広めるべく努力することが大切であると結論づけられた。

#### 第2回 「文化の創造」

##### ○ 短大

学園にとって「文化の創造」とは学園の個性を打ち出すことで、それには教える側、教わる側のエネルギーが必要である。

##### ○ 高校

日本の伝統文化（そのなかには基本的な生活習慣を含む）をしっかりと教える必要がある。生徒の精神文化即ちモラルを高めるには、教師間の共通理解が必要で、教師は、生徒の心を耕すには、まず自らの心を耕さなければならない。



### ○ 幼稚園

個々の家庭の文化、即ち生活文化を把握し、それとのタイアップのうえに、子どもの中に新しいものを育てることが「文化の創造」であろう。

### ○ 名英予備校

人格形成の過程においては、「文化の創造」は自己変革を伴う体系的な知的活動であり、これに適う人間像としては、「出会い」を大切にす人間、自己管理のできる人間、主体的に学習することのできる人間が考えられる。

### ○ 名英図書出版協会

学園としての「文化の創造」を図るためには、国際交流を盛んにし、世界中から学生生徒を集めたり、帰国子女向けの弁論大会を企画してはどうか。国際理解教育等について必要な調査研究をすることが大切である。

### ○ 法人本部

「文化の創造」に関して、教育の役割は、既成の文化遺産の伝達と、新しい文化創造活動への準備を促すことである。そのためには、日々の授業、行事を充実し、そのなかで学生・生徒・園児の創造へのエネルギーを引き出し育てるべきであろう。

○ 最後に、「文化の創造」は感性を磨くことに尽きる、「礼節第一」から文化が始まる、文化とは広い視野にたつて学問を積極的に学ぶことである、という言葉で締め括られた。

## 第3回 「世界観の確立」

### 短大

主体的な人間の形成を目指し、自分の頭で考えよと指導している。「世界観の確立」には、距離をおいて自分を眺める眼をもたなくてはいけない。

国際文化科では個々人のアイデンティティの確立を旗印にしている。自ら研究し、発表することのできる人間の育成を目指している。

### ○ 高校

「世界観の確立」には、泰西文化の研究をとおして東洋文化との統合を図ることが大切。高校の「誓いの言葉」の第2の「常に広い視野に立って、学問を積極的に追及するよう努力します。」は「世界観の確立」の具現化に繋がる言葉であろう。

本学園の国際交流を進めるには、「世界でどう生き

るか」「日本でどう生きるか」という哲学が必要。

社会科の「倫理」は、「世界観の確立」に繋がる科目である。生徒の中に芽生えている土壌をいかにして哲学にまで高めるかが課題であろう。

### ○ 幼稚園

幼稚園は自己の確立の土台を作る時期、自己主張のできる人間をつくるには、豊かな心を育てることが大切。集団のルールの中で友達と遊べる子を育成したい。そうした人間形成こそが、「世界観の確立」に繋がるのではないか。

この幼稚園でなければできないこと、ここでやっておくべきことを目指して、園児なりの問題を意識させ、感覚を養い、認識を高めることが大切であるが、園児に対しては、指導は、常に具体的でなければならない。

### ○ 名英予備校

国際理解には、物差しを変えて見る必要がある。異質なものが相互に認め合い、尊重し合う態度が必要。国際社会に通用するには、日本の同質社会から脱皮し、自己変革を図ること。

### ○ 名英図書出版協会

国際理解のためには

自己（自国）と他者（他国）の差異に気付く。

自己（自国）と他者（他国）の共通点に気付く。

自己（自国）と他者（他国）の関係について考える。等の態度の養成ということが考えられる。

世界の中でとかく評判の良くない日本人だが、一人ひとりの自覚と国の教育施策で信頼される日本人となることが大切である。

### ○ 法人本部

教育の場としては、世界への関心の刺激、基礎知識の伝達定着、国際感覚の養成、世界に関わろうとする意欲の促進をすることが基本であろう。

○ 最後に、建学の精神について、3回にわたり各部門からそれぞれの考えの開陳、実践例の報告があったが、その具現化はなかなか難しい。創立者石田鑑徳先生は、古今東西の先哲の思想を深く勉強していて、カントの「道徳律」、西郷隆盛の「敬天愛人」、儒教の「仁」、「明德」、「彼我一体」の思想また、禅の思想等についても遺文集「祈明日」に述べられている。我々はこの思想を改めて噛み締め、実践的な観点から学生、生徒、園児にどう働きかけていくべきかを改めて考えてみる必要があろうと締め括られた。

# 学園各部門一年の歩み

## 数々の成果を挙げて

### ◎ 名古屋明德短期大学

- ・ オーストラリアへ語学研修  
7月16日～8月18日  
グリフィス大学の提携プログラムへ  
34名参加
- ・ 公開講座  
短大を社会に開かれた教育の場とするため平成3年度から実施。本年度は「多様性の中の日本人」という大テーマで、5人の講師の方の有意義な講演があった。講師は、本短大の先生と、来年度から国際文化科に就任を予定されている先生方である。(敬称略)
- 北出 篤夫 情報化と日本 10月3日
- 小堀用一郎 変わり行くアメリカの郊外生活 10月17日
- 畑中 圭一 心のふるさとーことば・祭り・こども 11月7日
- 山田 直 ポテト・カウチ文化か、盆踊り文化かー文学的文化論 11月21日
- 笹島 恒輔 日本人と体力 12月9日
- ・ 秋桜祭 (短大祭)  
10月31日～11月1日

### ◎ 星城高等学校

- ・ 進学の結果挙がる  
平成4年3月末国公立大学合格38名  
北大・東北大・名大等へ  
平成5年3月末も成果を期している。
- ・ 30周年記念行事  
オーストラリアBALLARAT高校演奏会  
平成4年4月21日 名古屋市民会館  
記念講演会  
平成4年10月26日 石田記念館  
奈良薬師寺高田好胤管長  
「親の姿・子の心」  
創立記念式典  
平成4年11月9日 センチュリーホール  
記念講演 早稲田大学 吉村作治先生  
「ピラミッド大いなる謎」
- ・ 修学旅行 韓国へ

仰星コース 8月5日～8月8日  
男子・女子 10月19日から10月25日までの間

- ・ 運動各部の奮戦  
全国高校総体全国大会 (8月宮崎) へ  
剣道・柔道・レスリングは連続出場  
ソフトボール 初出場  
国民体育大会 (秋、山形) へ愛知県の主要メンバーとして生徒出場 レスリング・剣道・ソフトボール・バスケットボール  
国体の愛知県強化校としてのレスリング部の練習風景を東海テレビで放映  
全国高校選抜・選手権大会 (3月)  
剣道・柔道・レスリング  
全国大会へ出場予定  
柔道…県大会優勝の姿を名古屋テレビで放映

### ◎ 星城中学校

- 第1回入学試験 優れた志願者集まる。
- 第1次入試 2月7日
- 第2次入試 同月21日

### ◎ 星の城幼稚園



- ・ 出陣太鼓を演奏する園児たち (中日新聞より)
- ・ 桶狭間出陣太鼓を演奏 大好評  
「第5回シティマラソンINとよあけ大会」開会式にて 平成5年1月10日 中京競馬場
- ・ 交通安全キャンペーン  
平成4年12月4日 二村台皿池地内にて  
ドライバーに黄色い手旗を振って

### ◎ 名英予備校

- 平成5年4月1日より「名古屋英学塾」から「名英予備校」に名称を変更する。「名英予備校」は通称から正式名称となる。

### ◎ 名英図書出版協会

- 第41回東海三県中学校英語弁論大会  
参加校75校 平成4年11月3日 石田記念館  
優勝 安城南中学校 3年 岡田岳人君



## プロフィール

名古屋明德短期大学

小林 淳 宏 教授

小林教授は、旧制一高から東大仏文科へ進み、卒業後時事通信社に入社、得意の英語・フランス語を武器に、ロンドン特派員をはじめ、パリ、ワシントン、ニューヨーク、モスクワ、再びパリと海外の第一線の特派員生活を約20年経験され、世界の激動の姿を目の辺りにつぶさに見て来られた。ケネディ大統領の暗殺、ブラハの春、キューバ危機、フランス第4共和制の末期、そして川端康成のノーベル文学賞受賞の現場などである。

フランス滞在が長く、その間、ソルボンヌで政治学、フランス語の話し方コース等を修了して、フランス語は文字どおり本場仕込である。

現在、月刊の総合雑誌「THIS IS 読売」の「マスコミ横にらみ」の欄を担当し、世相に対して鋭い論評を加えてみえる。時には名古屋明德短期大学の学生の様子も筆にして、PRの一翼も担ってみえる。ただ、残念なことにこの欄はこの3月号で終わりになる。

時事通信社を重役で定年退職してから、名古屋明德短期大学へ就任するまでは、悠々自適、定年後は自分が本当にしたいことをするという方針で、すでに下地を積んできた囲碁、ゴルフ、エレクトーン、水泳、ダンスと実に多彩な趣味に一層の磨きをかけるとともに、四国八十箇所を全行程徒歩で、頭を丸め、白装束を着た完全な巡礼姿で参拝して回られた。それらの生活を描いた著書が出版されるや、福岡の民放の依頼で、ヨーロッパの定年後の生き方を取材、それらが放映され、また著作にもなっている。

そして平成3年度には、短大の公開講座の棟尾を飾り、いまや定年に関する評論家でもある面目を発揮し、「四十からの生き方」について含蓄のある講演をされたのである。

短大発足の時には、英語科の教授として着任されたが、この度国際文化科の開設とともに、同科に移ることが予定され、その豊富な海外体験を生かした授業が期待されている。

地元地域紹介

## 東海市

…… 産業と歴史の街 ……

名古屋明德短期大学の所在する東海市は、昭和44年4月、旧横須賀町と上野町が合併して発足した新しい市で、今は人口9万7千余、産業と歴史の街である。市の第3次総合計画のテーマは「活力、ぬくもり、そしてロマンあふれるまちづくり」である。

昭和31年から始まった愛知用水事業のおかげで、知多半島全般に農



細井平洲銅像

業の高度化、近代化が進められたが、この用水は、工業の振興にも新たな可能性を生み出して、昭和34年名古屋臨海工業地帯が造成され新日本製鉄を中心とするわが国有数の鉄鋼基地が現出した。

農業面では、バイオテクノロジーの技術を用い、全国屈指の洋ランの出荷地となっている。ただ、臨海工業地帯の造成に伴い、それまで盛んであったノリの養殖は完全にストップし漁業の歴史は終わった。

市の北部は、万葉の時代には、あゆち湯と呼ばれ市内諏訪神社の境内に「あゆち湯潮干にけらし知多の浦に朝こぐ舟も沖に寄る見ゆ」の歌碑がある。

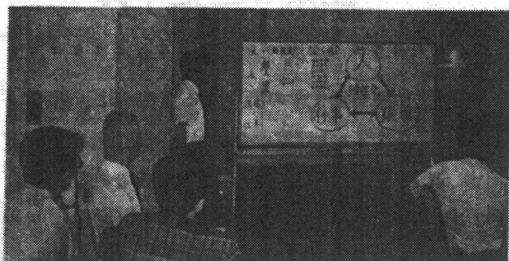
江戸時代には、尾張藩第2代藩主徳川光友により横須賀に御殿が造営され、しばしば藩主の「お成り」があった。その名残もあって、横須賀は明治以後は、西知多の政治経済の中心地として発展してきた。

また、江戸も中期、儒学者細井平洲が市内の現荒尾町内に生まれた。好学の平洲は、長崎に遊学し、江戸に塾を開き、貧乏藩の財政建て直しに顕著な業績を挙げた米沢藩主上杉鷹山の師として令名高く、その後尾張藩に招かれ、藩の学問所明倫堂を創設、藩学の振興に努めた。現在市内にある神明社の境内にある平洲記念館には、その遺品が多数陳列されている。

まことに、東海市は、活力、ぬくもり、ロマンにあふれる産業と歴史の街といつてよいであろう。

## 研 修

### ○ 事務職員研修



組織の機能の向上のためには、組織の構成員の職務に関する能力を伸ばし、士気を高揚することが大切である。そのためには研修が必要になる。教育指導に直接関係する事項についての研修は、短大以下各部門で、教育職員によりそれぞれ独自の計画と方法で実施されているが、事務担当者については、各部門共通の事務作業があり、関連した課題もあるので、法人本部が主催して、一堂に会して研修を行っている。平成3年度から、法人本部近くのホテルで、夏の一日を費やして行ってきた。

平成4年度は7月31日（金）ライオンズホテル名古屋で40名が参集し、午前8時30分から午後5時まで行われた。

石田理事長の開会の挨拶のあと、石田法人本部事務局長によって「学園の将来計画」が、壮大な構想のもとに述べられた。

ついで実務的な私学共済に関する知識の伝達講習が法人本部職員によって行われた。各部門の事務担当者として、教職員の共済関係の事務について、遺漏なく遂行するために必要な知識と留意点について詳細な解説があった。

午前の後半は6つのグループに分かれ、チームビルディングというゲーム作業を行なった。チームのなかでの自分の役割を認識することの大切さをゲームを通じて学ぶというものであった。

午前の最後から午後にかけては、グループディスカッションを行なった。各部門を一つのグループとして、それぞれの組織の活性化を図るにはどんなことが必要かというテーマでディスカッションし、代表者が発表した。そして他の部門の年長者からの講評があった。

この研修は、事務職員としての必要な知識の修得のほか、ゲームやディスカッションのなかでの自己及び他者を改めて認識することができたという点で、参加者にとって貴重な経験であった。そして従来接触の少なかった他の部門の人との交流ができたことも付随した収穫であった。

### ○ 星の城幼稚園の教職員研修

幼稚園の教職員研修が、学園全体の事務研修に先立つこと2日前の7月29日に幼稚園において行なわれた。

幼稚園には、特に事務職員が置かれていないので、教職員各自が事務について一定のことは承知していることが必要になる。そこで、私学共済に関する基本的な知識の伝達講習が法人本部職員から行なわれた。それと前後して、士気高揚のための講話、教職員としての心得が法人本部事務局長や幼稚園副園長、学監によって行なわれた。そして、やはりチームビルディングも実施し、最後に全員による反省会があって研修会を終了した。

### 学園表彰

本学園では、従来部門別に、異なる基準で表彰が行われていたが、平成2年度から学園として共通の基準で表彰が行なわれることになった。平成4年度の表彰者は、次の通りである。

勤続20年	藤沢 百子	星城高等学校
〃	脇田 豊	〃
〃	岡田伊久男	〃
〃	吉田 圭子	星の城幼稚園
勤続10年	木村 善治	星城高等学校
〃	丸山 清法	〃
〃	渡辺美智子	〃
〃	永田 亘	〃
〃	今平 靖	名英図書出版協会

### 愛知県監査委員の監査

平成4年度財政的援助団体にたいする愛知県監査委員の監査が、本学園の場合、平成4年11月27日に終日に行われた。県より監査委員が来園し、法人本部・各部門において諸帳簿、証票を念入りに調査した。その結果は、平成5年2月3日付愛知県公報において「事業の実施状況及び経理事務は、良好であった。」と発表された。

それに先だって9月9日愛知県私学振興室の指導検査が行われた。

### 編集後記

漸く第2号の発行に漕ぎつけた。短大の学科増設、中学校の新設、高校の創立30年と多忙な、しかし、発展的な学園の一年であった。平成5年度がこの多忙を礎にして一層の発展の年であることを願う。